

## 令和2年度 事業報告

社会福祉法人 四天王寺福祉事業団

当法人は開祖聖徳太子の御聖旨に則る『理念』を礎に、ご利用者の尊厳を守り、良質なサービスを安全に提供し、安心して地域で暮らすことができるよう貢献することを、「宣言」「職員心得」においてその具現化を求めている。本来、令和2年度（2021年度）の事業報告では、法人全体の「宣言」「職員心得」へのさらなる徹底・浸透への取り組みや各事業部の報告にとどめるべきところである。

しかしながら、令和2年（2020年）3月11日、WHO[World Health Organization;世界保健機関]のテドロス事務局長が、“新型コロナウイルス感染症[COVID-19]”をパンデミック[pandemic: (感染症の)世界的大流行]相当として宣言した後、世界各国では新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、人類は未だその危機から脱していないのが実情である。この間にも、従来型ウイルスより感染力の高い変異ウイルスの感染拡大によって、アウトブレイク（感染爆発）の多発は止まず、欧米諸国では幾度かの厳重なロックダウン（都市封鎖）の発令やワクチン接種の普及・浸透によって、事態の打開に取り組んでいる。米国ジョンズ・ホプキンス大学の発表によれば、2021年4月17日（日本時間）現在、新型コロナウイルスによる世界の死者数は、300万人を超えた。昨年（2020年）9月末時点で100万人、本年（2021年）1月中旬には200万人を超え、その後3カ月で100万人が亡くなられた。まさに変異ウイルスが脅威を加速化させ、世界の新型コロナウイルス感染者数は、1億5000万人を超えた。米国CNNテレビ（電子版）では、“既に170以上の国・地域では、ワクチン接種が開始されているものの、世界各国へワクチン接種を充分に行き渡らせるには、ワクチンの開発及び増産が鍵を握る。”と報じている。

わが国でも変異ウイルスの感染拡大により、医療崩壊や介護崩壊が懸念される集団感染が全国的に相次いだことから、遂に3度目の「緊急事態宣言：当初、令和3年4月25日～5月11日を、5月31日まで延長」の発出となった。漸くワクチン接種が医療関係従事者・65歳以上の高齢者から順次着手されているが、ワクチン接種の普及・浸透には、世界的なワクチン需要に対する供給が整うまで、今暫く時間を要するのが実情でもある。国内のワクチン接種が完了するまでは、国民ひとり一人が自らはもとより、家族や友人、自身にとって大切な方々の命や健康を守るべく、新型コロナウイルス感染症に罹患しないようにリスク回避の行動を心がける、この基本行動こそ、コロナと闘う医療関係従事者との協働であり、最善のエールともなろう。以下、各事業部の報告を示す。

○医療事業部は、四天王寺病院で高度な医療技術と安心できる療養環境の提供により、①地域住民の健康保持、②患者様の社会復帰、という目標を達成すべく、地域医療機関・保健・福祉事業と連携を図り、良質で安全かつ安心できる医療が提供できる診療体制の更なる充実と人財育成に努めた。また、大阪市立大学との連携強化を図り、安定した顧客獲得に努めるも、従来の病床稼働率やCT・MRI・内視鏡の付加価値の高い検査で思うような結果が出なかった。4月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、新規の入院患者が激減し、1年を通じて70%前後の稼働率が続き、外来患者や検査・手術件数も激減し、医療物資不足も加わり医療サービスに支障をきたした。現状打開の為に、2床の陰圧室と発熱外来専用ブースを設置し、新規外来患者の確保に努めた。医療スタッフについては、看護師や看護補助者の離職に伴う慢性的な不足解消の為に、新卒者採用に力を入れ、育成期間を派遣スタッフで対応し、離職防止と人財確保に努めた。

四天王寺和らぎ苑では、医療的依存度の高いご利用者を、医療と福祉が力を合わせて、より健康で快適な生活が送れるよう支えるとともに、お一人おひとりの人生を大切に、楽しみ、生きるよるこび、云わば、“いのちの彩り”を提供できる施設づくりを目指し取り組んだ。CS（顧客満足）に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で、外来診療・在宅福祉サービスが、年間約30日間

の事業を休止となった。全ての事業で通常と異なる難しい調整が必要となったが、リモートによる診療・リハビリ・療育がその間推進され、患者・利用者から評価を得たうえに定着まで出来たことは成果となった。また、患者・利用者稼働率は、事業休止期間があったにも関わらず全事業において概ね計画を上回った。とりわけ、リハビリによる医療事業収入は前年度比 6,000 万円増となり、あらためて地域におけるニーズが高いことを知る結果となった。一方、ES（職員満足）に関しては、兼ねてより懸案であった全職種年間休日数 123 日の統一化を果たした。このことは、離職防止のみならず新規採用活動においても有効な要素となった。

○高齢事業部は、「宣言」及び法人事業計画に則って各施設事業計画を立案し、ご利用者支援、地域支援等を実践したが、新型コロナウイルス感染症予防のため、例年より縮小した事業活動となった。本年も職員に対しては、専門別応用スキル研修により、良質なサービス提供のスキル向上に取り組んだ。また、事業部各施設の現状を共有し、ご利用者の状態に応じて施設を移ることができるというスケールメリットを活かし、ご利用者やご家族様、関係機関にも安心と信頼を頂くことを継続して取り組んだ。リスク面では、“ご利用者の事故ゼロ”を目指し、特に転倒事故等対応の検討継続と、新型コロナウイルス感染症予防と対策に注視して取り組んだ。人財確保は、事業部内合同の採用媒体活用にて今年度も一定の成果を得た。EPA と技能実習生の外国人雇用は、共に入国が遅延し次年度以降の開始となった。社会貢献活動については、生活困窮レスキュー事業等の支援、及び障害者雇用・中間的就労・若年認知症カフェや、相談支援活動等、地域での連携・共働を可能な範囲で実践した。

○障害母子保育事業部は、法人事業方針・事業計画に基づき各施設の経営計画書を立案・実施した。また、事業部会議を毎月開催し、情報共有と課題検討を行った。新型コロナウイルス感染症予防については、衛生機器の整備、健康管理の周知徹底を行い、各事業で行事等の縮小、面会や地域活動の制限を実施した。なお、3 施設にて感染が一部発生したが、所轄庁との連携で感染拡大を抑えることができた。各施設の修繕・改修状況は、太子学園では玄関、トイレ、浴室等、生活スペースの大規模改修を行った。富田林苑は居室の大規模改修を実施し、生活環境の充実を図った。夕陽丘保育園では、北分園の増床改修を実施し、保育環境の向上と、労働環境の改善を行った。女性自立支援センターは、管理運営業務受託が令和 3 年度から 8 年度まで更新決定された。富田林苑は、富田林市より次年度からの基幹相談支援事業受託が決定し、体制を整えた。平成 29 年度に四天王寺太子学園で発生した死亡事案について、法人の誠実な対応と保護者様のご理解を得て円満なる和解・示談が成立した。

○法人本部は、「職員がより働きやすい環境整備」により職員満足度を高めるべく、昨年度施行された働き方改革関連法に基づき、有給休暇の 5 日取得や時間外労働の削減、勤務間インターバルの確保がなされているか等について各施設の実態把握、注意喚起に努めた。その他ボランティア休暇規程、介護職員実務者研修を取得する学生への研修費支援規程等、法人諸規程の改訂とともに適正な運用に注力した。財務面では、法人全体の収支状況の把握とともに、全体財務の適正運用に努めた。研修センターは、従来の対面式・集合研修から Web 上でのオンライン式・個別研修やオンデマンド研修へ切り替え、キャリアステップに必要な研修を実施した。

本年度も混迷・混沌たる事態の中での事業報告となった。いずれにせよ、新型コロナウイルス感染症の余波は、福祉・医療機関の経営・運営にも、今後数年は深刻な影響を与えることは必定であろう。次年度が如何に厳しい時局を迎えようとも、われわれは、ご利用者の笑顔を成果とすることを忘失してはならない。そのためには、最前線で活躍する福祉・医療に従事する当法人職員が、安心・安全かつ健康で「和顔愛語」を励行出来るように、感染予防・対策に適った設備・備品の拡充、「新しい生活様式」に相応しい職場環境づくりに特段の意を払わねばならない。以上